

寝心地は良かったようだった。段ボールのトイレは沈んで怖かったようだ。改善が必要。

- ・弱者の立場に立って物事を考えていきたい。目配り気配りをするよう心掛けたい。
- ・サポートがあれば、ある程度自立して避難所生活が送れそうな方もいる。しかし、家族と離れてしまった場合「こころの不安」は相当大きいことが想定されるため、パニックを防ぐフォローが必要であると感じた。
- ・配慮の必要性は十人十色であった。人と接すること自体が困難な人もいた中で、貴重な体験ができたが、実際の避難所での場合に、根気よく接することができるだろうか。



- ・ヘルプマークを初めて知った。障がい者に対する意識が高まった。
- ・障害のある避難者も、自分でヘルプマーク付きの持ち出し袋を準備する自助努力のきっかけになるのではないかと思った。
- ・障がい者の方がこんなに大勢参加してくれて感動した。避難所での配慮を心がけたい。



#### 《食料・物資班》

- ・ご飯系、おかず系を袋で作った。文字通り、目分量でやったがそれなりに食べられた。被災時に生き延びられると思った。
- ・はじめは、これを本当に作るのかと驚いたが、実際作ってみると簡単で美味しい。防災の集まりで実践してみたい。
- ・食べる人の立場に立って食事を作ると、色々なアイデアが出てきます。常に相手のことを考えて行動することを知りました。
- ・袋に食材を入れて茹でるだけで、色々な料理ができて楽しかった。
- ・避難者たちが美味しいと喜んで食べていたので良かった。ビニール袋で出汁巻き玉子ができたり、もち米であんころ餅ができたので、デザートも主食もできてびっくりした。



#### 《ボランティア受付班》

- ・避難者の要望、相談を聞きだすことが大変だった。「対応できるか？できないか？」の判断も難しかった。

・実際に避難者の中からボランティアをしてくれる人がいるのか？自分は元気なら進んでやろうと思う。

・ボランティア班の人が少なかったが、避難者は少人数できたので要望が聞けた。

#### 《トリアージ学習》

講師：伊藤隆広氏 御前崎市消防署消防司令



・初めてトリアージという言葉を知り、話を聞いて勉強になった。

・トリアージの時間が被災者の命を左右します。判断の難しさを感じた。

・自分に障害があっても人を助ける側になりたいが、トリアージは難しく、判断したことが間違っているのかどうか心配だ。「ほこみて」が分かった。

#### ☆5時限目「実践訓練を終えて考えるワークショップ」

井ノ口宗成氏（静岡大学情報学部講師）

《良かったことと、悪かったことをグループごとに考え発表してくれました》

・直接障がい者の避難者と接することができたので、少し心の準備ができた。

・朝の班割と実際の班の活動が違ったので分からないことがあった。

・他の班の活動が良く分からなかった。





☆6時限目「災害後の不安解消、生活再建につながる知識のレシピ」  
～法律があなたを助ける～

永野 海氏（中央法律事務所弁護士）

- ・被災して絶望している時にとっても力になる情報が満載でした。
- ・「知っている」ということがいかに大切かわかりました。伝えられる人になりたいです。
- ・災害が起きた時もネガティブにならず、少しでも勉強して、少しでも知識を持って伝えること

ができるようになりたい。



- ・まずは罹災証明の申請、全ての支援のスタート。勝手に解体せず写真をいっぱい撮っておく。動画を含め。
- ・弁護士さんに相談するといいい思った。お金のことはいつも心配になるけど不安が薄れて良かった。すごいなあと思いました。
- ・多くの専門家が活躍することで、被災者の不安の軽減につながる事が分かった。少しでも不安が減ることで、復興への力になると感じた。
- ・「弁護士」の存在を利用することを覚えた。勉強の詳細を忘れても、とっかかりを知っておくだけで生活に役立つ。覚えておくべきだ。
- ・知っておけば、命が助かった時何とかなると思った。安心しました。

◆2日目 10月1日（日）

☆1時限目「応急危険度判定と被害認定～2次災害防止と罹災証明～」  
晝仲一成氏（御前崎災害支援ネットワーク理事）

- ・建物の全壊・半壊などテレビでしか見たことがなく、ランクも木造、鉄筋、鉄筋コンクリート造の建物で危険度も違う。それによって罹災証明も違って来るなど分かった。
- ・興味のある授業でした。実際に被害にあった時は何をして良いのか分からなくなる。今回の講義で、罹災証明の発行がなぜ大切なのかを知ることができた。



・災害対策というと防災グッズを揃えることを強く思ってしまうが、減災対策として家の耐震化、家具の固定をする方が有効だと学ぶことができた。

## ☆ 2 時限目

### 公開講座「百年一度の安政東海地震 と千年一度の明応東海地震」

都司嘉宣氏

(深田地質研究所客員研究員)



・私の地域は耐震化率が70%です。目標の98%にするにはどのように進めていくか目標が見えてきたので、町内に帰って進めていきたいです。  
・古文書から当時の状況を顕在化していて、吸

い込まれるように聞いた。これを基本としたハザードマップの作成ができると思う。

・過去の事例や地震のメカニズムが良く分かり、2035年の数字が出た時はドキドキした。自宅の家具のチェックをします。

・2035年。あと20年足らずで必ず起こる地震と考えると何かしなくてはと感じる。現地調査したデータと計算上でのデータがほぼ一致とはさすがに説得力がある。予知できなくても必ず来ることは事実だと分かった。

・千年に一度の明応東海地震の被害規模は、水・食料の備蓄は二の次で、家の構造、家具の固定が重要だと分かった。

・未来を考えるためには過去を知ることの大切さも知りました。備蓄や避難生活のことを考えることが今までは多かったです。それも命あってのこと。我が家は古いのでこれから診断と対応をしたい。

・地形等で津波の状態が変わる。百年と千年では被害の規模が違うこと知った。

## ☆ ランチタイム

### 「みんな元気になるトイレの話」

太田智久氏 (富士市役所危機管理課)



・クラウドファンディングによる取組み。新たな取組みで参考にしたい。全国的に広がれば良いと感じた。

・トイレトレーラーの話を知った。安心してトイレに入れそうです。

・トイレに水が流せない、簡易・携帯トイレの